



## 脱コロナ 新時代へ！

私たちの生活に長きにわたって影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症の扱いが、ゴールデンウィークの後から変更されます。政府の新型コロナウイルス感染症対策本部が決定した「マスク着用の考え方の見直し等について」において、4月以降の新学期におけるマスクの着用については「学校教育活動の実施に当たっては、マスクの着用を求めないことを基本とする」等とされているところです。それを受けて学校では、4月から「マスクの着用は個人の判断」として、新学期を迎えています。この個人の判断というところに、これからの教育活動にとってチャンスがあると思います。



帯西では、子供たち自身が問題や課題と向き合い、合意形成したり、意思決定したりしながら自分であるいは自分たちで行動すべきことを決めていきます。そして決まったことを実践し、振り返る活動を大切にしています。子供たち自身が課題に気付き、子供たち自身が生活を創っていく経験を積み重ねていくのです。だからこそ、今回の政府の決定は、子供たちが自分たちの生活を常に考えながら、どのような場面でマスクが必要か等を考えるチャンスが訪れたと思っています。

5月8日(月)に予定されているのは、感染症法における新型コロナの「2類相当」から「5類」への引き下げです。これまでは、感染した人や濃厚接触者に入院を求めたり外出の自粛など行動を制限したりすることができました。それらが季節性インフルエンザと同じ扱いになります。新型コロナは、現在流行しているオミクロン株になってからは、症状がない人や軽症で済む人が多くなりました。また、重症化を防ぐ治療法も開発されています。ただし、心配されるのが、熱や咳の症状があっても医療機関に行かない人が増えることです。新型コロナが無くなるわけではないので、病気の人や高齢の人が罹ると、きちんと治療を受けなければ命にかかわります。周りの人も重症化する人への配慮を忘れてはなりません。そこで、自分で考えて行動できるためにもマスクの予備を常にランドセルに持たせてください。今後の感染状況やマスクの着用が効果的であると考えられる場面によっては、推奨することがあるかもしれません。

社会全体で3年間も行動を制限されたことは、これまでにない経験でした。その間に、マスクの時間が増え、友達と遊ぶ機会が減り、多くのイベントも中止されました。ようやく3年前の日常に戻ると言われていますが、戻るのではなく、新たな教育活動の枠組みを創り出すことが必要だと考えます。コロナ禍でも、よかった点は継承し、新たな形を創り出す必要があるのです。マスク生活によってインフルエンザの流行を防ぎ、多くの命を救ったことも事実です。自分で現状を把握し、どのような行動をとることが最適なのかを考えるチャンスが到来したと考え、教育の世界にも新時代がやってくるのだと実感しています。